

大学番号 私立22

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 研究科の設置

注1

届出

医療創生大学大学院 生命理工学研究科 生命理工学専攻 (修士課程)

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人医療創生大学
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

企画課

職名・氏名

シヨキ スズキ トモヒロ
書記・鈴木 智博

電話番号

0246-29-5327

(夜間)

0246-29-5111

e-mail

kikaku@isu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

生命理工学研究科

＜生命理工学専攻（修士課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	22
7. その他全般的事項	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人医療創生大学

(2) 大学名

医療創生大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

福島県いわき市中央台飯野5丁目5番地1

~~(〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目1番1号)~~

(〒277-0803 千葉県柏市小青田1丁目3番4号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (令和2年4月)		
学長	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (令和2年4月)		
研究科長	(ナラ タケシ) 奈良 武司 (令和2年4月)		
専攻主任	(ツノダ マサル) 角田 大 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
生命理工学研究科 生命理工学専攻 （修士課程） 修士（生命理工学）	理学関係 工学関係	2年	5人	— 年次 — 人	10人	新規入学者を募集	基礎となる学部 薬学部 健康医療科学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]	0.5倍	— 倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	3 (—) [—]	— (—) [—]	2 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	3 (—) [—]	— (—) [—]	2 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	3 (—) [—]	— (—) [—]	2 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	3 (—) [—]	— (—) [—]	2 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		0.60		0.40				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	3 [—] (—)	— [—] (—)	2 [—] (—)	— [—] (—)	
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	3 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次	/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4年次	/		/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	3 [—] (—)	— [—] (—)	5 [—] (—)	— [—] (—)	

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	3 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	0 人	— 人	
令和3年度	2 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	0 人	— 人	
			令和3年度	0 人	— 人	
合 計		0 人		0 人	— 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命理工学研究科 生命理工学専攻（修士課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 (物質理学コース)	物質理学特別研究Ⅰ	1通	6			12	4					
	物質理学特別研究Ⅱ	2通	6			12	4					
	物質理学研究講読Ⅰ	1通	2			12	4					
	物質理学研究講読Ⅱ	2通	2			12	4					
	物理化学特論	1・2前		2			1					
	生体機能特論	1・2後		2		2						
	生体物質特論	1・2前		2		1						
	物質構造特論	1・2後		2			1					
	毒性学特論	1・2前		2			1					
	生命科学特論Ⅰ	1・2前		2		1						
	生命科学特論Ⅱ	1・2後		2		1						
	天然物化学特論	1・2後		2		1						
	有機化学特論	1・2前		2		2						
	生化学特論	1・2後		2		2						
	生命理科学特論	1・2前		2			1					
	構造生物学特論	1・2後		2		1						
小計(16科目)	-	-	16	24	0							
専門科目 (物理工学コース)	物理学特別研究Ⅰ	1通	6			4	2					
	物理学特別研究Ⅱ	2通	6			4	2					
	物理学研究講読Ⅰ	1通	2			4	2					
	物理学研究講読Ⅱ	2通	2			4	2					
	感性工学特論	1・2後		2		1						
	応用計測学特論	1・2前		2		1						
	機能解析学特論	1・2後		2		1						
	情報工学特論	1・2前		2		1						
	科学研究法特論Ⅰ	1・2前		2		1						
	科学研究法特論Ⅱ	1・2前		2		1						
	物理的エネルギー特論	1・2前		2		1						
	電気生理学的評価法特論	1・2後		2			1					
	超音波イメージング特論	1・2後		2		1						
	生命理工学特論	1・2後		2		1						
	バイオメカニクス特論	1・2前		2			1					
	数理工学特論	1・2後		2		1						
小計(16科目)	-	-	16	24	0							
合計(32科目)	-	-	32	48	0							
卒業要件及び履修方法												
必修科目16単位、選択科目から16単位以上を修得し、30単位以上修得すること。 論文指導は、特別研究Ⅰ、Ⅱ及び研究講読Ⅰ、Ⅱで行う。												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 (物質理学コース)	物質理学特別研究Ⅰ	1通	6			13	2					
	物質理学特別研究Ⅱ	2通	6			13	2					
	物質理学研究講読Ⅰ	1通	2			13	2					
	物質理学研究講読Ⅱ	2通	2			13	2					
	物理化学特論	1・2前		2		1						
	生体機能特論	1・2後		2		2						
	生体物質特論	1・2前		2		1						
	物質構造特論	1・2後		2		1						
	毒性学特論	1・2前		2			1					
	生命科学特論Ⅰ	1・2前		2		1						
	生命科学特論Ⅱ	1・2後		2		1						
	天然物化学特論	1・2後		2		1						
	有機化学特論	1・2前		2		2						
	生化学特論	1・2後		2		1						
	生命理科学特論	1・2前		2		1						
	構造生物学特論	1・2後		2		1						
小計(16科目)	-	-	16	24	0							
専門科目 (物理工学コース)	物理学特別研究Ⅰ	1通	6			4	3	1	1			
	物理学特別研究Ⅱ	2通	6			4	3	1	1			
	物理学研究講読Ⅰ	1通	2			4	3	1	1			
	物理学研究講読Ⅱ	2通	2			4	3	1	1			
	感性工学特論	1・2後		2		1						
	応用計測学特論	1・2前		2		1						
	機能解析学特論	1・2後		2		1	1					
	情報工学特論	1・2前		2		1						
	科学研究法特論Ⅰ	1・2前		2		1						
	科学研究法特論Ⅱ	1・2前		2		1						
	物理的エネルギー特論	1・2前		2		1						
	電気生理学的評価法特論	1・2後		2			1					
	超音波イメージング特論	1・2後		2		1				1		
	生命理工学特論	1・2後		2		1						
	バイオメカニクス特論	1・2前		2			1					
	数理工学特論	1・2後		2		1						
小計(16科目)	-	-	16	24	0							
合計(32科目)	-	-	32	48	0							
卒業要件及び履修方法												
必修科目16単位、選択科目から16単位以上を修得し、30単位以上修得すること。 論文指導は、特別研究Ⅰ、Ⅱ及び研究講読Ⅰ、Ⅱで行う。												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 (物質理学コース)	物質理学特別研究Ⅰ	1通	6			13	3					
	物質理学特別研究Ⅱ	2通	6			13	3					
	物質理学研究講読Ⅰ	1通	2			13	3					
	物質理学研究講読Ⅱ	2通	2			13	3					
	物理化学特論	1・2前		2			1					
	生体機能特論	1・2後		2		2						
	生体物質特論	1・2前		2		1						
	物質構造特論	1・2後		2			1					
	毒性学特論	1・2前		2			1					
	生命科学特論Ⅰ	1・2前		2		1						
	生命科学特論Ⅱ	1・2後		2		1						
	天然物化学特論	1・2後		2		1						
	有機化学特論	1・2前		2		2						
	生化学特論	1・2後		2		2						
	生命理科学特論	1・2前		2		1						
	構造生物学特論	1・2後		2		1						
小計(16科目)	-		16	24	0							
専門科目 (物理工学コース)	物理学特別研究Ⅰ	1通	6			4	2					
	物理学特別研究Ⅱ	2通	6			4	2					
	物理学研究講読Ⅰ	1通	2			4	2					
	物理学研究講読Ⅱ	2通	2			4	2					
	感性工学特論	1・2後		2		1						
	応用計測学特論	1・2前		2		1						
	機能解析学特論	1・2後		2		1						
	情報工学特論	1・2前		2		1						
	科学研究法特論Ⅰ	1・2前		2		1						
	科学研究法特論Ⅱ	1・2前		2		1						
	物理的エネルギー特論	1・2前		2		1						
	電気生理学的評価法特論	1・2後		2			1					
	超音波イメージング特論	1・2後		2		1						
	生命理工学特論	1・2後		2		1						
	バイオメカニクス特論	1・2前		2			1					
	数理工学特論	1・2後		2		1						
小計(16科目)	-		16	24	0							
合計(32科目)	-		32	48	0							
卒業要件及び履修方法												
必修科目16単位、選択科目から16単位以上を修得し、30単位以上修得すること。 論文指導は、特別研究Ⅰ、Ⅱ及び研究講読Ⅰ、Ⅱで行う。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・教員人事昇格の理由により、「物質理学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授13」に変更。 ・教員人事昇格の理由により、「物質理学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授4」から「准教授3」に変更。 ・教員人事昇格の理由により、「物質理学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授13」に変更。 ・教員人事昇格の理由により、「物質理学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授4」から「准教授3」に変更。 ・教員人事昇格の理由により、「物質理学研究講読Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授13」に変更。 ・教員人事昇格の理由により、「物質理学研究講読Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授4」から「准教授3」に変更。 ・教員人事昇格の理由により、「物質理学研究講読Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授13」に変更。 ・教員人事昇格の理由により、「物質理学研究講読Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授4」から「准教授3」に変更。 ・教員人事昇格の理由により、「生命科学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。

【令和3年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・教員人事(2名昇格、1名就任)の理由により、「物質理学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。 ・教員人事(2名昇格、1名就任)の理由により、「物質理学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。 ・教員人事(2名昇格、1名就任)の理由により、「物質理学研究講読Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。 ・教員人事(2名昇格、1名就任)の理由により、「物質理学研究講読Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学研究講読Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学研究講読Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学研究講読Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学研究講読Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学研究講読Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。 ・教員人事就任の理由により、「物理工学研究講読Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。 ・教員人事昇格の理由により、「物質構造特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。 ・教員人事昇格の理由により、「物理化学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。 ・教員人事退職の理由により、「生化学特論」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。 ・科目担当者追加の理由により、「機解析学特論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。 ・科目担当者追加の理由により、「超音波イメージング特論」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
--

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
8 科目	24 科目	0 科目	32 科目	8 科目 [—]	24 科目 [—]	0 科目 [—]	32 科目 [—]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	生体物質特論	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
2	物質構造特論	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
3	生命科学特論 I	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
4	天然物化学特論	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
5	生化学特論	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
6	生命理学特論	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
7	感性工学特論	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
8	応用計測学特論	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
9	科学研究法特論 I	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
10	物理的エネルギー特論	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
11	バイオメカニクス特論	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため
12	数理工学特論	2	1・2	専門	選択	隔年開講のため

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

隔年開講としている。学生に対しては、令和4年度（2年次）に開講・履修可能であることを周知、説明している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{12}{32} = \boxed{37.5} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用地積： 9,460.02㎡ 令和3年4月 国際看護学部開設に伴う用 途変更のため(3)			
	校舎敷地	126,160.57㎡ 123,105.00㎡	0㎡	0㎡	126,160.57㎡ 123,105.00㎡				
	運動場用地	25,426.87㎡ 23,800.00㎡	0㎡	0㎡	25,426.87㎡ 23,800.00㎡				
	小 計	151,587.44㎡ 146,905.00㎡	0㎡	0㎡	151,587.44㎡ 146,905.00㎡				
	そ の 他	316,871.27㎡ 309,448.86㎡	0㎡	0㎡	316,871.27㎡ 309,448.86㎡				
	合 計	468,458.71㎡ 456,353.86㎡	0㎡	0㎡	468,458.71㎡ 456,353.86㎡				
(2) 校 舎	専 用	53,500.33㎡ 44,822.15㎡	0㎡	0㎡	53,500.33㎡ 44,822.15㎡	大学全体 借用地積： 1,278.85㎡ 薬学看護専門学校と共用 令和3年4月 国際看護学部開設に伴う用 途変更のため(3)			
		(47,556.87㎡) (44,822.15㎡)	(5,203.52㎡)	(739.94㎡)	(47,556.87㎡) (44,822.15㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	41 室	32 室	124 室	3 室 (補助職員 1人)	1 室 (補助職員 1人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			生命理工学研究科全体			
	生命理工学研究科 生命理工学専攻		22 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	令和3年4月 図書・視聴覚資料新規購 入のため(3)	
		冊	種	種					
	生命理工学研究 科 生命理工学 専攻	19,899 [5,558] (19,898 [5,558])	249 [186]	0 [0]	235 231	1	0		
	計	19,899 [5,558] (19,898 [5,558])	249 [186]	0 [0]	235 231	1	0		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		いわきキャンパス 大学全体		
	5,052.81 ㎡		448		288,000				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					いわきキャンパス 大学全体	
	4,513.16 ㎡		陸上競技場1面、野球場1面、テニスコート10面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	令和3年4月 研究費増額のため(3)
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	100千円	150千円 100千円	図書購入費	0千円	0千円	0千円	
		共 同 研 究 費 等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円	
	学生 1 人 当 り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		760千円	480千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入及び私立大学等経常経費補助金 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	医療創生大学						学生募集停止学科数	5	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
(学部) 人文学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
心理学科	4	—	—	—	学士 (心理学)	—	—	—	平成13年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成27年4月より 学生募集停止
薬学部	6	90	—	540	—	0.76	0.67	—	平成19年度	—	
薬学科	6	90	—	540	学士 (薬学)	0.76	0.67	—	平成19年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成23年4月より 入学定員変更 (薬学科150→90)
教養学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域教養学科	4	—	—	—	学士 (教養)	—	—	—	平成27年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成31年4月より 学生募集停止
看護学部	4	80	—	320	—	1.05	1.03	—	平成29年度	—	
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.05	1.03	—	平成29年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
健康医療科学部	4	100	—	400	—	0.95	0.98	—	平成31年度	—	
作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.66	0.55	—	平成31年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
理学療法学科	4	60	—	240	学士 (理学療法学)	1.13	1.26	—	平成31年度	同上	
心理学部	4	60	—	240	—	0.57	0.58	—	令和2年度	—	
臨床心理学科	4	60	—	240	学士 (心理学)	0.57	0.58	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
国際看護学部	4	80	—	320	—	1.10	1.10	—	令和3年度	—	
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.10	1.10	—	令和3年度	千葉県柏市小青 田1-3-4	
大学全体	—	410	—	1,820	—	—	—	—	—	—	

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和3年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
(大学院) 理工学研究科											
(修士課程)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
物質理学専攻	2	—	—	—	修士 (理学)	—	—	—	平成4年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止 (物質理学専攻・ 物理工学専攻)
物理工学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	—	平成4年度	同上	
(博士課程)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
物質理工学専攻	3	—	—	—	博士 (理工学)	—	—	—	平成6年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止
<u>生命理工学研究科</u>											
(修士課程)	2	5	—	10	—	0.50	0.40	—	令和2年度	—	
<u>生命理工学専攻</u>	2	5	—	10	修士 (生命理工学)	0.50	0.40	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
(博士後期課程)	3	2	—	6	—	1.00	0.50	—	令和2年度	—	
<u>生命理工学専攻</u>	3	2	—	6	博士 (生命理工学)	1.00	0.50	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
人文学研究科											
(修士課程)	2	10	—	20	—	0.15	0.20	—	平成4年度	—	
臨床心理学専攻	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	0.15	0.20	—	平成17年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-4	
大学院全体	—	17	—	36	—	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<生命理工学研究科 生命理工学専攻（修士課程）>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	梅村 一之 <令和2年4月> 理学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 天然物化学特論
専	教授	片桐 拓也 <令和2年4月> 薬学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生化学特論
専	教授	村田 亮 <令和2年4月> 医学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生命科学特論 I
専	教授	山浦 政則 <令和2年4月> 理学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 有機化学特論
専	教授	村田 和子 <令和2年4月> 博士(医学)
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生体機能特論
専	教授	蝦名 敬一 <令和2年4月> 博士(医学)
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生命科学特論 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	梅村 一之 <令和2年4月> 理学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 天然物化学特論
専	教授	片桐 拓也 <令和2年4月> 薬学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生化学特論
専	教授	村田 亮 <令和2年4月> 医学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生命科学特論 I
専	教授	山浦 政則 <令和2年4月> 理学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 有機化学特論
専	教授	村田 和子 <令和2年4月> 博士(医学)
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生体機能特論
専	教授	蝦名 敬一 <令和2年4月> 博士(医学)
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生命科学特論 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	梅村 一之 <令和2年4月> 理学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 天然物化学特論
専	教授	片桐 拓也 <令和2年4月> 薬学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生化学特論
専	教授	村田 亮 <令和2年4月> 医学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生命科学特論 I
専	教授	山浦 政則 <令和2年4月> 理学博士
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 有機化学特論
専	教授	村田 和子 <令和2年4月> 博士(医学)
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生体機能特論
専	教授	蝦名 敬一 <令和2年4月> 博士(医学)
		物質理学特別研究 I 物質理学特別研究 II 物質理学研究講読 I 物質理学研究講読 II 生命科学特論 II

専	教授	楊箬 隆哉 ＜令和2年4月＞ 医学博士
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ 感性工学特論 応用計測学特論 機能解析学特論 科学研究法特論Ⅱ
専	教授	加藤 茂明 ＜令和2年4月＞ 農学博士
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生命工学特論
専	教授	菊池 雄士 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生体機能特論
専	教授	GOH AH CHENG ＜令和2年4月＞ Doctor of Philosophy
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ 物理的エネルギー特論 超音波イメージング特論
専	教授	松本 司 ＜令和2年4月＞ 博士(薬学)
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生体物質特論
専	教授	山崎 直毅 ＜令和2年4月＞ 薬学博士
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 有機化学特論
専	教授	奈良 武司 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生化学特論

専	教授	楊箬 隆哉 ＜令和2年4月＞ 医学博士
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ 感性工学特論 応用計測学特論 機能解析学特論 科学研究法特論Ⅱ
専	教授	加藤 茂明 ＜令和2年4月＞ 農学博士
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生命工学特論
専	教授	菊池 雄士 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生体機能特論
専	教授	GOH AH CHENG ＜令和2年4月＞ Doctor of Philosophy
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ 物理的エネルギー特論 超音波イメージング特論
専	教授	松本 司 ＜令和2年4月＞ 博士(薬学)
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生体物質特論
専	教授	山崎 直毅 ＜令和2年4月＞ 薬学博士
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 有機化学特論
専	教授	奈良 武司 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生化学特論

専	教授	楊箬 隆哉 ＜令和2年4月＞ 医学博士
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ 感性工学特論 応用計測学特論 機能解析学特論 科学研究法特論Ⅱ
専	教授	加藤 茂明 ＜令和2年4月＞ 農学博士
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生命工学特論
専	教授	菊池 雄士 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生体機能特論
専	教授	GOH AH CHENG ＜令和2年4月＞ Doctor of Philosophy
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ 物理的エネルギー特論 超音波イメージング特論
専	教授	松本 司 ＜令和2年4月＞ 博士(薬学)
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生体物質特論
専	教授	山崎 直毅 ＜令和2年4月＞ 薬学博士
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 有機化学特論
専	教授	奈良 武司 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ 生化学特論

専	准教授	古川 勉寛 ＜令和2年4月＞ 博士（工学）
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ バイオメカニクス特論

専	准教授	古川 勉寛 ＜令和2年4月＞ 博士（工学）
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ バイオメカニクス特論

専	准教授	古川 勉寛 ＜令和2年4月＞ 博士（工学）
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ バイオメカニクス特論
専	教授	出崎 克也 ＜令和3年4月＞ 博士（薬学）
		生命科学特論Ⅱ
専	准教授	丹治 貴博 ＜令和3年4月＞ 博士（薬学）
		物質学特別研究Ⅰ 物質学特別研究Ⅱ 物質学研究講読Ⅰ 物質学研究講読Ⅱ
専	准教授	三好 圭 ＜令和3年4月＞ 博士（学術）
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ 機能解析学特論
専	講師	小林 大介 ＜令和3年4月＞ 博士（保健学）
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ
専	助教	齋門 良紀 ＜令和3年4月＞ 博士（保健学）
		物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学研究講読Ⅰ 物理学研究講読Ⅱ 超音波イメージング特論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

・教員人事の理由により、住谷賢治が「准教授」から「教授」へ昇格。

【令和3年度】

・片桐拓也教授退職。
・嵯名敬一教授退職。
・教員人事の理由により、坂本直道が「准教授」から「教授」へ昇格。
・教員人事の理由により、角田大が「准教授」から「教授」へ昇格。
・教員人事の理由により、出崎克也教授が生命理工学研究科へ所属（生命科学特論Ⅱ）。
・嵯名敬一教授退職の理由により、出崎克也教授へ変更「生命科学特論Ⅱ」。
・教員人事の理由により、丹治貴博准教授が生命理工学研究科へ所属（物質理学特別研究Ⅰ、物質理学特別研究Ⅱ、物質理学研究講読Ⅰ、物質理学研究講読Ⅱ）。
・教員人事の理由により、三好圭准教授が生命理工学研究科へ所属（物理工学特別研究Ⅰ、物理工学特別研究Ⅱ、物理工学研究講読Ⅰ、物理工学研究講読Ⅱ、機能解析学特論）。
・教員人事の理由により、小林大介講師が生命理工学研究科へ所属（物理工学特別研究Ⅰ、物理工学特別研究Ⅱ、物理工学研究講読Ⅰ、物理工学研究講読Ⅱ）。
・教員人事の理由により、齋門良紀助教が生命理工学研究科へ所属（物理工学特別研究Ⅰ、物理工学特別研究Ⅱ、物理工学研究講読Ⅰ、物理工学研究講読Ⅱ、超音波イメージング特論）。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
7	5	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
16	6	0	0	22	0	18	5	1	1	25	0
(17)	(5)	(0)	(0)	(22)	(0)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当教員数	/		
0	0	0				0	0	0			
(0)	(0)	(0)				(0)	(0)	(0)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
18	5	1	1	25	0	18	5	1	1	25	0
[2]	[△1]	[1]	[1]	[3]	[0]	[2]	[△1]	[1]	[1]	[3]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当教員数	/		
0	0	0				0	0	0			
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を卒業済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	4	4
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{25}{22} = \boxed{113.63} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{25} = \boxed{16} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	片桐 拓也	R3.3	必修	物質理学特別研究Ⅰ	①	R3.3.31付け 私事都合のため辞任 (3)
				必修	物質理学特別研究Ⅱ	①	
				必修	物質理学研究講読Ⅰ	①	
				必修	物質理学研究講読Ⅱ	①	
				選択	生化学特論	①	
2	教授	蝦名 敬一	R3.3	必修	物質理学特別研究Ⅰ	①	R3.3.31付け 私事都合のため辞任 (3)
				必修	物質理学特別研究Ⅱ	①	
				必修	物質理学研究講読Ⅰ	①	
				必修	物質理学研究講読Ⅱ	①	
				選択	生命科学特論Ⅱ	①	
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
2	人	必修	8	科目	必修	8	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
2	人	必修	8	科目	必修	8	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{22} = 9.09\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2 人

- (注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員が辞任したため、教育内容、効果の低下を招かないよう後任補充を行っている。学生に対しては、シラバス及び期首のオリエンテーション等において周知を図っている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

生命理工学研究科 生命理工学専攻（修士課程）

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年)	該 当 な し		

生命理工学研究科 生命理工学専攻（博士後期課程）

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年)	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>研究科内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。</p> <p>生命理工学研究科については、現在退職教員の補充、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p> <p>研究科内の「教員人事在り方検討委員会」にて、中・長期的な教員組織編成の将来構想を検討し、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。</p> <p>今後の教員組織の維持・向上のため、4名の教員を加えた（60歳代1名、50歳代2名、30歳代1名）。</p> <p>(3)</p>	<p>研究科内の「教員人事在り方検討委員会」にて、中期的な、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p> <p>学長、研究科長、専攻主任を主体とする「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して中・長期的な教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(3)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成28年)</p>	<p>1. 1年次後期の配当科目である「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」及び「疾病治療論Ⅰ」について、各科目内容における学修の順序性が重要となるため、教育効果があるような授業展開とすること。</p>	<p>留意事項を踏まえ、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」および「疾病治療論Ⅰ」では、科目内容に変更が生じないように留意しつつ、他科目との科目内容の重複や進捗状況を鑑みたくて、学修の順序性に齟齬がでないようシラバスの再検討や教育効果があがるよう配慮した授業を展開すべく準備をすすめてきた。</p> <p>(29)</p> <p>留意事項 時間割上で、「疾病治療論Ⅰ」を学んだ後に、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」を学修できるよう配置している。また、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」の授業内容は、疾病等による障害のアセスメントも含んでいるが、主に人間の生活面に視点をあてたアセスメントを学修できるようにしている。昨年の学生の到達度、成績、授業アンケートをみても、授業効果が上がっていると考えている。</p> <p>(元)</p>	<p>今年度授業を実施した後、成績や授業アンケートの結果を利用して科目内容の検証を実施し、必要に応じては、科目内容の変更も検討していく。</p> <p>授業内容を変更する際は、事前に設置審査委員会に諮ることとする。</p> <p>(29)</p> <p>履行済</p> <p>(元)</p>
<p>認 可 時 (平成28年)</p>	<p>2. 教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までに教員を充足すること。</p>	<p>教員の補充を必要とされた「地域養生看護学（在宅援助）」については、開講年次（2年後期）までに兼任を補充して対応する予定である。</p> <p>(29)</p> <p>留意事項 専任教員により「地域養生看護学（在宅援助）」を開講しているが、該当領域の教員が兼任教員の確保に努めている。</p> <p>(元)</p> <p>地域養生看護学（在宅援助）については、専任教員の充足はかなわなかったが、現任教員で科目を担当し、十分な教育を行っているため特に支障はない。</p> <p>(2)</p>	<p>該当領域の教員が兼任教員の確保に努めていく。</p> <p>(29)</p> <p>履行中 該当領域の教員が継続して兼任教員の確保に努めていく。</p> <p>(元)</p> <p>今後も、当該領域の教員が継続して教員の確保に努めていく。</p> <p>(2)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
認 可 時 (平成28年)	2. 教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までに教員を充足すること。	留意事項	地域養生看護学（在宅援助）については、現任教員で十分な教育を行っているため特に支障はない。 なお、令和3年5月のAC教員審査に候補者1名を諮る予定である。 (3)	今後も、当該領域の教員が継続して教員の確保に努めていく。 (3)
認 可 時 (平成28年)	3. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	指摘事項 (改善)	法人の経営委員会人事検討部会について、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。 (29) 学校法人経営委員会において、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を実施しており、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。 (元) 学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、看護学部人事選考委員会において、退職教員の補充及び新規採用について、教員組織の年齢構成に留意した採用に努めている。 (2)	法人の経営委員会人事部会において、毎年、教員補充についての検討を行っていく。中期的には看護学部完成年度までに、各専門領域における教員組織編制の将来構想について検討していく。 (29) 学校法人経営委員会において、継続して教員補充について検討していく。また、各専門領域における教員組織編制の将来構想についても併せて検討していく。 (元) 継続して、教員人事在り方検討委員会にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めていく。 看護学部人事選考委員会にて、継続して年齢構成に留意した教員補充について検討していく。 (2)

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成28年)</p>	<p>3. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、看護学部人事選考委員会において、退職教員の補充及び新規採用について、教員組織の年齢構成に留意した採用に努めている。 (3)</p>	<p>履行中</p>	<p>継続して、教員人事在り方検討委員会にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めていく。 看護学部人事選考委員会にて、継続して年齢構成に留意した教員補充について検討していく。 (3)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)</p>	<p>該当なし</p>				
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年)</p>	<p>1. 専任教員数が認可時の計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行するよう努めること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>着任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会を立ち上げ、随時検討している。また、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募し、確実に履行するよう努めている。 (元)</p> <p>着任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会にて、随時検討している。また、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募しており、確実に履行するよう努めている。 (2)</p> <p>就任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会にて、随時検討している。また、本学教員の人脈を通じた採用活動を実施し、教員の採用計画を確実に履行するよう努めている。 さらに、看護学部内に辞任対策プロジェクトを立ち上げ、就任辞退、退職の原因分析と改善策を検討している。 (3)</p>	<p>履行中</p>	<p>今後も継続して、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募し、確実に履行するよう努める。 (元)</p> <p>今後も継続して、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。 (2)</p> <p>今後は、本学教員の人脈を通じた採用活動と併せて、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalへの公募を随時実施し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。 また、看護学部内の辞任対策プロジェクトで検討した就任辞退、退職に対する改善策を実施していく。 (3)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今 後 の 実 施 計 画
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	1. 専任教員数が設置計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行し、教員組織の充実に努めるとともに、教員の入れ換えに当たっても、教員体制の継続性の担保に努めること。	指摘事項 (改善)	各領域ごとの教員補充状況にバラツキがあるため、バランスよく教員補充ができるように努力している。 また、教員体制の継続性の担保に関しては、広い範囲で各教員の担当科目を見直し教員配置が出来るように努めている。 (2)	履行中	今後も、領域ごとにバランスよく教員補充ができるように努めていく。 また、学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性を担保していく。 (2)
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	1. 専任教員数が設置計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行し、教員組織の充実に努めるとともに、教員の入れ換えに当たっても、教員体制の継続性の担保に努めること。	指摘事項 (改善)	領域ごとの教員補充状況にバラツキがあるため、バランスよく教員補充ができるように努力し、本学教員の人脈を通じた採用活動を実施し、教員の採用計画を確実に履行するよう努めている。 また、教員体制の継続性の担保に関しては、各教員の担当科目を見直し、教員配置が出来るように努めている。 (3)	履行中	今後も継続して、領域ごとにバランスよく教員補充ができるように努めていく。 また、学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性を担保していく。 (3)
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	2. 実習科目や演習科目をはじめとして、教員の指導体制の充実に図り、学生に対するきめ細やかな履修指導を行うとともに、学生に対する履修情報の周知・徹底に努めること。	指摘事項 (改善)	履修の手引を学生に分かりやすく内容を修正し、それを用いて各学年主任が丁寧に履修指導を実施している。 また、別途指導が必要な学生には、チューターが個別指導に努めている。 (2) 履修の手引や実習要項を基に、学部内委員会の委員長がガイダンス等で分かりやすく、丁寧に説明している。 また、学年主任やチューター等が、グループや個別の履修指導において、繰り返し履修情報を確認する等、指導体制を整え、周知の徹底を図っている。 (3)	履行済	実習委員長、領域の実習責任者、担当教員の組織体制を充実させる。 また、学生に対してきめ細やかな履修指導ができるよう、履修の手引等による周知を徹底させる。 (2) (3)

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>1. 当初計画に対する専任教員の充足率が70.00%となっているが、当初計画どおりの専任教員数の確保に向けた今後の教員採用計画について、具体的に説明すること。また、当初計画よりも専任教員が減少している現状において、教育・研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策等についても併せて説明すること。</p>	<p>令和2年5月1日現在における専任教員の充足率は70.00%（21名/30名）であったが、令和2年3月のAC教員審査に3名（教員組織を充実させるために新規教員採用3名）を諮り、令和2年6月に教授1名、助教1名、令和3年1月に教授1名が専任教員として着任した。</p> <p>また、令和2年6月のAC教員審査に1名（教員組織を充実させるために新規教員採用1名）を諮り、令和2年9月に助教1名が専任教員として着任し、一時、充足率83.33%（25名/30名）となったものの、講師1名が一身上の都合により退職したため、令和3年1月現在の充足率は80.00%（24名/30名）の状況である。</p> <p>就任辞退や途中退職の教員補充については、当初の人事計画を遂行すべく、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて適宜公募し、AC教員審査に諮り、6名の採用を得ることができた。</p> <p>しかし、公募だけでは、東日本大震災に係る福島第一原子力発電所事故による影響等の要因から、子育て世代や若手世代の教員からの応募が少なく、本学の希望する年齢層の教員の補充が困難であった。そのため、本学教員の人脈を通じて採用活動をした結果、これまでに6名採用することができた。</p> <p>今後も本学ホームページ等による公募と併せて、本学教員の人脈を通じた採用活動を継続して実施する。</p> <p>なお、欠員となった教員の担当予定授業科目については、教員補充、同学部の教員がAC教員審査を経て担当しており、未開講科目もなく、教育・研究上の支障はない。</p> <p>(2)</p>	<p>今後も本学ホームページ等による公募と併せて、本学教員の人脈を通じた採用活動を継続して実施し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。</p> <p>履行中</p> <p>(2)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>1. 当初計画に対する専任教員の充足率が70.00%となっているが、当初計画どおりの専任教員数の確保に向けた今後の教員採用計画について、具体的に説明すること。また、当初計画よりも専任教員が減少している現状において、教育・研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策等についても併せて説明すること。</p>	<p>令和3年5月1日現在における専任教員の充足率は、定年退職や令和3年4月に開設した国際看護学部への異動に伴い、46.66%（14名/30名）の状況である。 教員組織を充実させ、教育・研究活動を保障するため、令和3年5月のAC教員審査に候補者5名（新規教員採用5名（教授2名、准教授1名、講師2名））を諮る予定である。 また、学生の学修を第一に考え、臨時的に非常勤講師5名を登用し、教育に支障のないよう対応している。かつ、同学部の教員に担当科目を追加し、授業が適切に開講できるよう令和3年5月のAC教員審査に諮る予定である。 なお、これまでに欠員となった教員の担当予定授業科目については、臨時的な非常勤講師の登用や同学部の教員が適切にAC教員審査を経て担当しており、未開講科目もなく、教育・研究上の支障はない。 教員の採用活動については、昨年度から引き続き、本学教員の人脈を通じた採用活動を実施し、教員の採用計画を確実に履行するよう努めている。</p> <p style="text-align: center;">履行中</p> <p>(3)</p>	<p>今後は、本学教員の人脈を通じた採用活動と併せて、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalへの公募を随時実施し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。 また、看護学部内の辞任対策プロジェクトで検討した就任辞退、退職に対する改善策を実施していく。</p> <p>(3)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>2. 設置計画での専任教員数30名に対し令和2年度の履行状況報告書においては新たに3名が辞任しているが、教員の就任承諾に係る手続きは適正になされたものであったか、具体的に説明すること。また、教員の就任辞退や辞任の原因分析を行うとともに、就任辞退・辞任者数の減少に向けた適切な取組がなされているか具体的に説明すること。加えて、教員の辞任による教育研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策についても併せて説明すること。</p>	<p>看護学部看護学科の設置認可申請、及びAC教員審査での就任承諾に係る手続きにおいて、就任予定者に対しては着任時期、予定職位、担当予定授業科目、給与等の処遇について説明し、少なくとも完成年度までは勤務するという同意を得た上で就任承諾書へ署名・押印を得ており、就任承諾に係る手続きは適正に行っていたと認識している。</p> <p>また、入職時にはオリエンテーションを行い、労働環境や給与等の処遇について再度説明しており、認識の齟齬がないようにしている。</p> <p>これまでの就任辞退や辞任の主な理由は、家庭内の諸事情による退職（単身赴任の教員が多く、家庭の状況が変わったことにより、自宅に戻らざるを得ない等）、本人の病気、死亡によるもの等の止むを得ないものであった。</p> <p>就任辞退や辞任が多い状況を真摯に受けとめ、就任前に本学の状況を丁寧に説明し、齟齬なく理解を得た上で就任してもらうよう心がけている。</p> <p>今後の辞任減少に向けた取組としては、給与等の処遇面の改善について検討する予定である。</p> <p>欠員となった教員の担当予定授業科目については、教員補充、同学部の教員がAC教員審査を経て担当しており、未開講科目もなく、教育・研究上の支障はない。</p> <p>(2)</p>	<p>就任予定者に本学の状況を丁寧に説明し、十分な理解を得て、認識の齟齬がないよう徹底すると同時に、今後の辞任減少に向けた取組として、給与等の処遇面の改善について検討する。</p> <p>履行中</p> <p>(2)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>2. 設置計画での専任教員数30名に対し令和2年度の履行状況報告書においては新たに3名が辞任しているが、教員の就任承諾に係る手続きは適正になされたものであったか、具体的に説明すること。また、教員の就任辞退や辞任の原因分析を行うとともに、就任辞退・辞任者数の減少に向けた適切な取組がなされているか具体的に説明すること。加えて、教員の辞任による教育研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策についても併せて説明すること。</p>	<p>就任予定者に対して、AC教員審査での就任承諾に係る手続きにおいて、着任時期、予定職位、担当予定授業科目、給与等の処遇について説明し、同意を得た上で就任承諾書へ署名・押印を得る等、就任承諾に係る手続きは適正に行っており、認識の齟齬がないよう徹底している。 しかし、これまでの就任辞退、退職者が多く、当初の教員採用計画にあった専任教員数を充足していない現状に鑑み、看護学部内に辞任対策プロジェクトを立ち上げ、就任辞退、退職の原因分析と改善策の検討を実施している。 なお、これまでに欠員となった教員の担当予定授業科目については、臨時的な非常勤講師の登用や同学部の教員が適切にAC教員審査を経て担当しており、未開講科目もなく、教育・研究上の支障はない。</p> <p>(3)</p>	<p>引き続き、就任予定者に本学の状況を丁寧に説明し、十分な理解を得て、認識の齟齬がないよう、努めていく。 また、看護学部内の辞任対策プロジェクトで検討した就任辞退、退職に対する改善策を実施していく。</p> <p>履行中</p> <p>(3)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今 後 の 実 施 計 画
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	1. 多くの専任教員が 就任辞退又は辞任して いることから、原因分 析とその結果に基づく 改善策を適切に講じる ことにより、教育研究 水準の維持向上等に配 慮した安定的な教員組 織の編成に努めるこ と。	指摘事項 (改善)	これまでの就任辞退、退職 者が多く、当初の教員採用 計画にあった専任教員数を 充足していない現状に鑑 み、看護学部内に辞任対策 プロジェクトを立ち上げ、 教育研究水準の維持向上等 に配慮した安定的な教員組 織の編成に向け、就任辞 退、退職の原因分析と改善 策の検討を実施している。 (3)	履行中	看護学部内の辞任対策プロ ジェクトで検討した就任辞 退、退職に対する改善策を 実施していく。 (3)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	2. 専任教員数が設置 計画から減少している ため、指示された教員 の採用計画を確実に履 行するよう努めるとと もに、今後、新たに教 員の採用及び昇格の選 考を行う際には設置計 画履行状況等調査にお ける教員審査を受信す ること。	指摘事項 (改善)	領域ごとの教員補充状況に バラツキがあるため、バラ ンスよく教員補充ができ るように努力し、本学教員 の人脈を通じた採用活動 を実施し、教員の採用計 画を確実に履行するよう 努めている。 また、教員組織を充実さ せ、教育・研究活動を保 障するため、教員の新規 採用、現任教員への担当 科目追加、職位の変更を 令和3年5月のAC教員審 査へ諮る予定である。 (3)	履行中	本学教員の人脈を通じた採 用活動と併せて、本学ホ ームページ、及びJREC-IN Portalへの公募を随時実 施し、教員の採用計画を 確実に履行するよう努め る。また、看護学部内の 辞任対策プロジェクトで 検討した就任辞退、退職 に対する改善策を実施し ていく。教員の新規採用 、及び担当科目の追加、 昇格の選考を行う際には 、適切にAC教員審査へ 諮る。 (3)

健康医療科学部 作業療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成30年)</p>	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、今後の採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。 現在、健康医療科学部作業療法学科においては、退職教員1名（准教授）の補充のため、令和3年5月のAC教員審査に候補者1名を諮る予定である。</p> <p>(3)</p>	<p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(3)</p>

遵守事項

履行中

健康医療科学部 作業療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	1. 入学定員未充足の 改善に努めること。	学長の諮問委員会である入 試・広報委員会、および学 部内の入試広報委員会にお いて、広報活動の充実・活 性化について検討してい る。情報提供時期の見直し を図り、訪問対象高校を拡 大、作業療法士の職業理解 を目的とした協議会の開催 や出前講座、職業体験会の 開催等により、令和2年度入 学定員充足率95.0%となっ た。 (2) 学長の諮問委員会である入 試・広報委員会、および学 部内の入試広報委員会にお いて、継続して広報活動の 充実・活性化について検討 している。 新型コロナウイルス感染症 感染拡大の影響を受け、当 初計画していた募集活動が 制限される中、発信する情 報の見直しを図り、WEB上 でのオープンキャンパス実 施や、作業療法士の職業理 解を目的としたオンライン動 画の公開等を実施したが、 令和3年度入学定員充足率 55.0%となった。 (3)	学長の諮問委員会である入 試・広報委員会、および学 部内の入試広報委員会にお いて、継続して広報活動の 充実・活性化について検討 していく。 (2) 学長の諮問委員会である入 試・広報委員会、および学 部内の入試広報委員会にお いて、継続して広報活動の 充実・活性化について検討 する。また、文系コースで 学ぶ高校生を対象に、作業 療法士の職業理解を目的と したオンライン動画を公開 し、学生確保を図る。 (3)

指摘事項
(改善)

履行中

健康医療科学部 理学療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成30年)</p>	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、今後の採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。 現在、健康医療科学部理学療法学科においては、就任辞退者1名（准教授）の補充のため、令和3年9月のAC教員審査に候補者1名を諮る予定である。</p> <p>(3)</p>	<p>学校法人経営委員会において、毎年、教員補充について検討していく。中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(3)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)</p>	<p>該当なし</p>		

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>1.当初計画に対する専任教員の充足率が73.33%となっているが、当初計画どおりの専任教員数の確保に向けた今後の教員採用計画について、具体的に説明すること。また、当初計画よりも専任教員が減少している現状において、教育・研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策等についても併せて説明すること。</p>	<p>令和2年5月1日現在における専任教員の充足率は73.33%（11名/15名）であったが、令和2年3月のAC教員審査に2名（教員組織を充実させるために新規教員採用1名、職位不適格による再申請1名）を諮り、令和2年6月に教授1名、助教1名が専任教員として着任した。 （86.66%（13名/15名）） また、令和2年6月のAC教員審査に3名（教員組織を充実させるために新規教員採用2名、担当科目の追加1名）を諮り、令和2年10月に教授1名、助教1名が専任教員として着任している。 （100.00%（15名/15名）） さらに、令和2年9月のAC教員審査に3名（教員組織を充実させるために新規教員採用1名、担当科目の追加2名）を諮り、令和3年1月に助教1名が専任教員として着任した。（106.66%（16名/15名）） 未就任となった令和2年度着任予定者（教授1名）の補充については、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募し、候補者1名を令和3年3月のAC教員審査に諮る予定である。 現在、令和3年度着任予定者（准教授1名）より、令和2年11月に家庭の事情（新型コロナウイルス感染症の影響）による就任辞退の申し出があったため、現在、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募している状況である。（100.00%（15人/15人）） 欠員となった教員の担当予定授業科目については、非常勤講師の登用や教員補充、同学部の教員がAC教員審査を経て担当することから、教育・研究上の支障はなく、今後も授業開講時に間に合うよう、計画的にAC教員審査へ諮る計画である。 なお、学部内の教員人事在り方検討委員会にて、教員補充や分野・領域、年齢構成、中期的な教員組織編成等の検討をしており、教員組織をより充実させるために、当初の15名から、17名（113.33%（17名/15名））とする計画である。</p> <p>(2)</p>	<p>就任辞退、辞任が発生した場合には、適宜、本学ホームページ等にて教員公募を実施し、AC教員審査に諮ったうえで、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。</p> <p>履行中</p> <p>(2)</p>

健康医療科学部 理学療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>1. 当初計画に対する専任教員の充足率が73.33%となっているが、当初計画どおりの専任教員数の確保に向けた今後の教員採用計画について、具体的に説明すること。また、当初計画よりも専任教員が減少している現状において、教育・研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策等についても併せて説明すること。</p>	<p>令和3年5月1日現在における専任教員の充足率は93.3% (14名/15名)である。 現在、令和3年3月のAC教員審査に1名(教員組織を充実させるために新規教員採用1名)を諮っているところである。 また、令和3年度着任予定者(准教授1名)より、令和2年11月に家庭の事情(新型コロナウイルス感染症の影響)による就任辞退の申し出があったため、令和3年9月のAC教員審査に候補者1名を諮る予定である。 欠員となった教員の担当予定授業科目については、非常勤講師の登用や教員補充、同学部の教員がAC教員審査を経て担当することから、教育・研究上の支障はなく、今後も授業開講時に間に合うよう、計画的にAC教員審査へ諮る計画である。 なお、学部内の教員人事在り方検討委員会にて、教員補充や分野・領域、年齢構成、中期的な教員組織編成等の検討をしており、教員組織をより充実させるために、当初の15名から、17名(113.33% (17名/15名))とする計画である。</p> <p style="text-align: center;">履行中</p>	<p>就任辞退、辞任が発生した場合には、適宜、本学ホームページ等にて教員公募を実施し、AC教員審査に諮ったうえで、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。</p>
		(3)	(3)

心理学部 臨床心理学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和元年)</p>	<p>1. 健康医療科学部作業療法学科の定員未充足の是正に努めること。</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討している。情報提供時期の見直しを図り、訪問対象高校を拡大、作業療法士の職業理解を目的とした協議会の開催や出前講座、職業体験会の開催等により、令和2年度入学定員充足率95.0%となった。</p> <p>(2)</p> <p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試・広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討している。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、当初計画していた募集活動が制限される中、発信する情報の見直しを図り、WEB上でのオープンキャンパス実施や、作業療法士の職業理解を目的としたオンライン動画の公開等を実施したが、令和3年度入学定員充足率55.0%となった。</p> <p>(3)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討していく。</p> <p>(2)</p> <p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試・広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討する。また、文系コースで学ぶ高校生を対象に、作業療法士の職業理解を目的としたオンライン動画を公開し、学生確保を図る。</p> <p>(3)</p>

心理学部 臨床心理学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)</p>	<p>1. 教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。</p> <p>指摘事項 (改善)</p>	<p>開設初年度は、入学者数34人（入学定員充足率56.6%）となった。要因は、令和元年9月に学則変更の認可が得られたものの、高校では私立大学への推薦入試対象者選出会議が8月までに終了しており、本学部への進学を希望していた受験生は、認可を待てずに他大学へ進路を変更した事例が多く、また、学生募集・広報活動が出遅れたこと、実施期間の不十分さが影響したと分析している。さらに、外部からは「医療創生大学」という名称から「医療」に特化した学部構成であるという印象を持たれ、心理学部の存在を認知しにくいことが推測されたため、心理学部の認知度を高めるべく、学部情報や教員紹介動画、教員によるミニエッセイ等をSNSや大学HPを通して発信した。その結果、令和3年度の学生募集では、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、一部募集活動が制限されたが、入学者数35人（入学定員充足率58.3%）となった。</p> <p>(3)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討する。新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、教員による高校訪問や、来場型・WEBオープンキャンパスの開催、本学部の内容理解を目的としたダイレクトメールの送付や動画の作成、高校生の利用頻度の高いSNSを活用した情報発信等を計画している。また、WEB上だけでなく、ポスターや名刺等の紙媒体での広報戦略についても検討する。さらに、学費について見直し、学生の確保を図る計画である。</p> <p>履行中</p> <p>(3)</p>

国際看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和2年)</p>	<p>1. 薬学部薬学科の定員未充足の是正に努めること。</p>	<p>令和3年度の募集活動においては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、一部募集活動が制限されたが、動画の配信やSNS、ダイレクトメールの送付等を実施し、入学者数は61人（入学定員充足率0.67）となった。</p> <p>今後の18歳人口の推移や全国的な薬学部の志願動向予測、及び本学薬学部への入学状況等に鑑み、定員規模の適正化を図るため、令和4年度より入学定員を60人とするため、令和3年4月20日に大学の収容定員に係る学則変更の届出をした。</p> <p>(3)</p>	<p>WEBオープンキャンパスの開催やSNS、WEBコンテンツの強化、遠隔システムを活用した個別相談の充実、ダイレクトメールによる情報発信を実施する。</p> <p>また、高校訪問やガイダンス、説明会の実施に加え、長期的な学生確保の観点から市内の中学校でも早期から大学理解を含めた職業理解を図れるよう取り組んでいく。</p> <p>(3)</p>
<p>認 可 時 (令和2年)</p>	<p>2. 心理学部臨床心理学学科の定員未充足の是正に努めること。</p>	<p>開設初年度は、入学者数34人（入学定員充足率56.6%）となった。</p> <p>要因は、令和元年9月に学則変更の認可が得られたものの、高校では私立大学への推薦入試対象者選出会議が8月までに終了しており、本学部への進学を希望していた受験生は、認可を待たずに他大学へ進路を変更した事例が多く、また、学生募集・広報活動が出遅れたこと、実施期間の不十分さが影響したと分析している。</p> <p>さらに、外部からは「医療創生大学」という名称から「医療」に特化した学部構成であるという印象を持たれ、心理学部の存在を認知しにくいことが推測されたため、心理学部の認知度を高めるべく、学部情報や教員紹介動画、教員によるミニエッセイ等をSNSや大学HPを通して発信した。その結果、令和3年度の学生募集では、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、一部募集活動が制限されたが、入学者数35人（入学定員充足率58.3%）となった。</p> <p>(3)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、教員による高校訪問や、来場型・WEBオープンキャンパスの開催、本学部の内容理解を目的としたダイレクトメールの送付や動画の作成、高校生の利用頻度の高いSNSを活用した情報発信等を計画している。</p> <p>また、WEB上だけでなく、ポスターや名刺等の紙媒体での広報戦略についても検討する。</p> <p>さらに、学費について見直し、学生の確保を図る計画である。</p> <p>(3)</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康医療科学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD・SD委員会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">FD・SD委員会細則</p> <p style="text-align: right;">平成19年4月1日 制 定</p> <p>(趣旨) 第1条 この細則は、医療創生大学学則（昭和62年4月1日）第65条第2項及び医療創生大学大学院学則（平成4年4月1日）第10条の2に基づき設置された、FD・SD委員会（以下「委員会」という。）の運営について定めるものとする。</p> <p>(審議事項) 第2条 委員会は、本学教員の教育研究活動及び職員の教育研究等支援における資質向上・能力開発に関する次の事項を審議する。 (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項 (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項 (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項 (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行 (5) 授業評価の実施と結果に関する事項 (6) 職員のSDに関する事項 (7) その他FD・SDに関する事項</p> <p>(委員会の構成及び任期) 第3条 委員会は次に掲げる者をもって組織する。 (1) 各学部を代表する教員 (2) 事務局を代表する職員 (3) その他学長が必要と認めたる者 2 委員の人数は、学部長会の意見を聴いて学長が定める。 3 委員の任期は、学長が定める。</p> <p>(委員長) 第4条 委員会に委員長を置く。 2 委員長は、学長が指名する。</p> <p>(委員会の招集) 第5条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。</p> <p>(任務) 第6条 委員会は、審議の結果を学長に報告する。また、必要に応じて、教授会に報告する。</p> <p>(雑則) 第7条 委員会は、必要と認める場合は、委員以外の出席を求め、意見を聴くことができる。また、学長が認めたときには、小委員会を設置することができる。</p> <p>(事務) 第8条 委員会の事務は、教務学生課が当たる。</p> <p>(雑則) 第9条 この細則に定めるもののほか必要な事項は、委員会の意見を聴き、学長が定める。</p> <p>(改廃) 第10条 この細則の改廃は、委員会の議を経て、学長が行う。</p> <p>附 則 この細則は、平成19年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成22年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成26年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成27年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成29年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成30年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成31年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、令和2年4月1日から施行する。</p> </div>
--

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
毎月1回実施（ただし、夏期休業期間は休会とする場合がある。また必要に応じて臨時に開催する場合がある。）

c 委員会の審議事項等

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
- (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行
- (5) 授業評価の実施と結果に関する事項
- (6) 職員のSDに関する事項
- (7) その他FD・SDに関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD・SD研修会の実施
- ・授業改善アンケートの実施
- ・授業参観制度の実施

b 実施方法

- ・FD・SD研修会の実施
委員会において企画立案し実施している。基本的な内容として、学外から講師を招聘し、午前の部を講演、午後の部をグループワークとして実施している。
- ・授業改善アンケートの実施
前期及び後期の授業終了時期に授業内容に関するアンケートを学生に対して実施している。
- ・授業参観制度の実施
教員相互による授業参観制度を導入しており、見直し・検討を行いながら、教育力の向上に努めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD・SD研修会の実施
全学FD・SD研修会（令和2年度：1回）
第1回（令和2年10月）：参加率 100.0%
- ・授業改善アンケートの実施
前期：409科目（アンケート実施科目数）
後期：208科目（アンケート実施科目数）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD・SD研修会については、大学改革の喫緊の課題をテーマとし、高等教育の歴史、政策展開、国際化についてマクロに学ぶものから、授業の設計・方法、大学生の心理、大学職員のキャリア等、現場におけるミクロな個別ニーズに対応した「10のPDモジュール」を普通の授業展開（改善）に貢献している。
- ・授業改善アンケートについては、担当教員への結果のフィードバック、及び学内での公表をとおして、担当教員自身並びに教員相互の授業改善を促す仕組みづくりを検討しており、授業参観制度を導入し、検証を行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業終了時期に実施（前期は6月～7月、後期は12月～1月）。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員：担当科目の結果を個別にフィードバック、ホームページで公開
学生：ホームページで公開

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・申請時の教育課程を履行しつつ、将来に向けて検証が必要となる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成23年4月 公表
- ・令和2年10月 公表
- ・令和3年6月 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開中
- ・大学ホームページ上に公開予定（令和3年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成30年度に評価機関（大学基準協会）の大学評価（認証評価）を受けた結果、「現時点での判定を保留」となり、令和3年度までに再評価を受けるよう指示があった。
本学では、令和2年4月に再評価の申請をし、「適合」の認定を受けた。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。